

でも恵まれていると思います。先輩方が作り上げてきた伝統や成績のおかげで不便がなく練習ができています。とても感謝すべきことだと思います。

私は今、十七歳なので私が生まれる前からこのバドミントン部があるということになります。二十年目の記念すべきこの年に部にいることがとてもすごいと思いました。私は五年間で多くの先輩方の活躍を見てきました。中でも一昨年の夏に行われた野田インターハイでは、間近で素晴らしいプレーを見て感動しました。清水公園での男女ダブルスの準決勝の試合は心に残りました。私も先輩方のような試合をできるようにになりたいと思いました。そのためにはもっと努力が必要です。

私の目標は、先輩方を超える成績を出すことです。インターハイに出場すること、ベスト8に入ることを目指すのではなく優勝することを目標にし、チーム皆で実現させたいです。今年は高三になり六年間の練習の成果が出るので、心、技術、体力、戦術の面で後悔のないプレーをしたいです。この五年間でたくさんのことを学び、様々な人と出会い、とても内容の濃い日々を過ごしてきました。この期間に学んだことを残り一年間に生かせるように毎日の練習を大切に、先生、両親、先輩、後輩に感謝し、努力していきたいです。二十年間の伝統を受け継ぎ、次の代の後輩達へ良い襷をつなぎたいです。

2007年の目標

高井田 亘(21期生)

私の2007年は、今年以上に部活に力をいれて頑張りたいです。そして、インターハイや全国大会に出場して活躍したいです。

そのためには、大変な事がたくさんあります。体力面、技術面、精神面、戦術面と様々な角度から自分を見て悪い所を直したいと思います。しかし、悪い所を直すというのは自分一人では出来ません。なので、周りの人に手伝ってもらいながら直したいと思います。そして、手伝ってもらった人や応援してくれた人に感謝をしたいです。同じチームメイトと一緒に同じ目標を目指して頑張りたいと思います。

来年はみんなのため、自分のためになるような一年にしたいと思っています。今年よりも気を引き締めて新年を迎え、部活に力を入れて頑張りたいと思っています。

バドミントン部20周年記念おめでとうございます。私が20周年という年に現役としていられることにとっても感謝しています。後2年間色々なことがおこると思いますが、自分からやると言った事は最後まで責任をもちしっかりとやっていく

のでこれからもよろしくお願いします。

2007年の目標と思い出。

青木 雅彦(21期生)

バドミントン部20周年という記念すべき年にこの場に居られる事をすごく誇りに思っています。僕はバドミントンを小学5年生から始めました。最初はやはりシャトルを打つのがものすごく大変でしたが、友達と練習をしてうちにシャトルをきちんと打てるようになりました。そして今ではもう高校2年生になります。

僕はこの1年間を振り返り思うことは、今まで中学の部活とは違い練習量が多く辛いなということでした。しかし、練習をしない限り大会などでは成績を残すことは難しいのですから、とにかく必死にしがみついて行くのしかないので。自分の精神力を高め、そしてバドミントンの実力をつけるためには練習を積み重ねしかないので。それはとても大変です。それでも目標に向かって進むのみです。

また、もうすぐで高校2年生になります。高校1年の時とは違い、後輩たちの良き見本となるよう努力し、又、3年生の先輩方に対しては、足を引っ張らないようにしがみついて行くつもりです。卒業されたOBの方々の力も沢山おかりしたいと思いますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。

ぜひとも、この西武台バドミントン部へ足を運んで下さい。

ところで…僕にはひとつ心配なことがあります。それは勉強が大変苦手だということです。勉強も頑張らなくては…と思うのですが、どなたかこの方でもご指導をお願いします。

この20周年を新たなスタートラインとして、何事にも逃げ出さぬよう頑張っていきたいと思っています。

これからの目標

潮来 真広(21期生)

西武台千葉バドミントン部創部20周年おめでとうございます。僕は、この20周年という節目の年を現役選手として迎えることができることをうれしく思います。僕が入部してからもう少しで一年が過ぎようとしています。来年度には新入生がたくさん入ってくるようですが新入生に負けないようにがんばりたいです。僕はこれからの一年間で、技術を磨き、弱点をひとつでも多く克服して、試合に出場できるようにしたいです。又、自分は精神面がとても弱いと思うので毎日の練習の中や



私生活の中で自信をつけて強くしていけたらと思います。最終的には、インターハイに出場したいので、日々の練習からいろいろなことに気を使っていきたいです。

大会の成績だけでなく今まで先生方、先輩方によって築き上げてきた西武台千葉バドミントン部をより良くできるようにしたいです。

私とバドミントン

渡部 英美里(21期生)

西武台バドミントン部ができて20年、私が生まれる前から、今練習しているこの同じ体育館で先輩方が練習をしていたと思うととてもすごいと思いました。

私がバドミントンと出会って7年、始めたきっかけはいとこがやっていて楽しそうだと思い川間ジュニアに4年生の夏に入りました。入る前の私は、体だけ大きく、逆に心は小さく、人前で何かをやるような人ではありませんでした。私を最も大きく変えたことは、部長という仕事を任されたことです。部長をやるにつれて、前よりも明るくなっていく私がいきました。だから今の私がいるような気がします。私にとって川間ジュニアは大きな一歩を踏み出すきっかけとなった場所でした。バドミントンだけではなく、いろいろなことを教わった気がします。だから、西武台で本気でバドミントンをしようと思いました。

西武台バドミントン部に入部して4年、そして5年目に入ろうとしてるところです。西武台を背中に背負ってプレーできることはもう2年しかありません。今できること、すべきこと、越えないといけない壁、全力で乗り越えていきたいです。

人生は一度きり。人生を例えると映画であると先生が言っていました。渡部英美里という映画は1本しかありません。だからつまらない映画にだけはしたくありません。いい作品を作るためにはそれなりのことを成し遂げない限りいい作品とはいえないと思います。だから後悔のない映画を作っていきたいです。

私の人生の中でバドミントンと出会えたこと、西武台バドミントン部に入部して今プレーをして

いること、その時その時を大事にして今、そしてその先の未来を楽しく過ごしていきたいです。

「私が目指すもの」

飯高 香菜(21期生)

私の夢は、日本一になる事です。こんな夢は、西武台に来なければ考えもしなかったかも知れません。

私がバドミントンを始めたきっかけは、「バドミントンでもやってみないか？」と、スポーツに全く興味がなかった私を心配して父が誘ってくれたその一言でした。最初は、動くのが苦手な練習に行くのが嫌で嫌でしょうが無かった事を覚えています。しかしラケットに当るようになってどんどん楽しくなっていくの間にか練習に行く日を待ちわびるようになっていました。小学6年生の時、地元の中学に行くとバドミントン部が無いことを知って、これからもずっとバドミントンを続けていきたいと思い西武台に行こうと決めたのです。



しかしそんな甘い考えは入部してすぐにはなくなりました。続けていくだけでは駄目なのです。日本一、世界一を目指している人たちがこの部活には集まっている。それなのに私は、県大二位や三位で満足していたことにとっても恥ずかしくなり、だからこそ今まで優勝する事ができなかったのだと分かりました。そして、西武台に入り楽しいだけのバドミントンが勝つためのバドミントンになったのです。だからこそ、めぐり合えた同期のみんなと勝ちたいです。そのために、どんどん目標を高くしていきそれをこえられる「心」を鍛えていきたいです。

そして私の人生をスポーツの世界に導いてくれたバドミントンをずっと大事に続けていき、二十年間作り上げてきた部活の伝統に恥じない西武台らしい人間になり、そしてその記録を塗り替えていきたいです。

目標に向かって・・・

栗原 美紀(21期生)

私がバドミントンを始めてから5年が経ちまし

た。初めて羽を打った時の楽しさは今でも忘れません。一週間に2回ある練習が楽しく待ち遠しかったです。初めての試合、流山市民大会初心者部に出させて頂きました。その大会で準優勝し、それからまたバドミントンが楽しくなり練習を頑張りました。

小学6年生の時、茨城でインターハイが開催されると聞き田口監督に連れて行って頂きました。そこでは西武台の先輩方が白熱した試合をしていました。スマッシュが決まり大きく両手を上げガッツポーズをし、とてもカッコいい先輩方がいました。初めて見る素晴らしいプレーに私は圧倒されました。そしてそれは憧れと変わり、いつか私もあの舞台に立ちたいと願うようになりました。西武台中学への受験希望を決めたのもその時でした。

今、高校生になり1年が過ぎようとしています。そしていよいよあの最終目標が近づいてきました。20年間の受け継がれてきた先輩方の努力、礼儀、打ち勝つ心をもっとたくさん見習いもっと心と体を鍛えたいと思います。10年連続のインターハイ出場の記録を私達の代で切らないよう、なんと少しでも襷をつなぎたいと思います。そしてこれから残された時間、悔いの残らないよう感謝の気持ちそして初心を忘れず頑張っていきたいです。そしてあの時見たあの舞台に立ち日本一になりたいです。

西武台バドミントン部の一員になれて

柴崎 由佳(21期生)

西武台バドミントン部に入学して、もう一年がたとうとしています。二十年の歴史がある西武台バドミントン部、その何十人もの先輩方のなかの一員になれることはすごく大きなことだと思います。入学したとき、中学の頃から入りたかったこの部活に入れてとても嬉しかったと同時に、昔から運動が得意でない自分が、知り合いがいないこの部活できちんとやっていけるのかどうか、不安と緊張が多くありました。そして、自分は先生に言われた「最初の一年間は人づくり」が、果たして出来たのかどうか、この一年は反省が多いものとなりました。

バドミントンでは、人よりまったく出来ず、うまくいかなくて、悔しくて泣いたこともありました。家に帰ればどうしても自分の「甘え」が出てしまい、だらけてしまうことも多くなりました。それでも、先輩方の試合や大会でのプレーを見るたび、自分はこのままじゃいけない、自分もこんな風になりたいという思いがだんだんとより一層強くなっていきました。初めて先輩方の試合を見たとときの凄さと感動は、今でもよく覚えています。

自分はまだ、「粘り」が足りなくて、頑張っ

ているつもりでも、まだまだ甘さが多く出てしまいます。自分ひとりでバドミントンが出来るわけではなく、周りのみんなの協力があってからこそ出来るということ、自分に厳しく、自分を追い込み粘り強くなること、気遣いが出来ること、そして強くなるためにそれだけの努力をすること。三年生のインターハイで活躍できるよう、一步一步ゆっくり確実に進んでいきたいと思っています。

西武台に入学して

中村 紗也佳(21期生)

西武台のバドミントン部に入学して、もうすぐで1年が経とうとしています。去年の4月、私は西武台高校に入学してきました。

西武台に入ったきっかけは、もっとバドミントンをうまくできるようになりたかったからです。

西武台のバドミントン部に入学させてもらって、最初はバドミントン部員の名前も、やらなくてはいけない仕事も全然わからなくて、とまどってばかりでした。そんななか、バドミントン部員の名前を丁寧に教えてくれた先輩、仕事を教えてくれた同期のみんな、「先輩打ってください」と、声をかけてくれた後輩。みんなの優しい言葉のおかげで、西武台のバドミントン部に少しずつなじむことができました。

私はもうすぐで高校2年生になります。西武台生として、全ての行事が2回目になります。1年生のときよりも、余裕をもって、取り組むことができると思います。なので、自分のことだけを考えるのではなく、ほかの人のことも考えて行動したいと思っています。

大人になって自分の高校生活を振り返って見たときに、「高校生活を西武台で、西武台のバドミントン部で過ごして本当によかった」と思えるように、1日を大切にすごしていきたいと思っています。

三上 芽美(21期生)

私が西武台バドミントン部に入学して四年が経ちました。この四年間で私が教わった事はたくさんあります。バドミントンの技術、戦術、心構え、体力の付け方、礼儀、挨拶、返事、物事の考え方、などバドミントンだけでは無くこれから生きていく中で絶対に必要になることも私は学びました。これからも、もっとたくさん私は学びます。

しかし、私たちが恵まれた環境でバドミントンができるという事は歴代の先輩方が積み重ねて作り上げた、立派な土台があるからだとは思いません。西武台カラーは先輩方の伝統を受け継いでいく事によって生まれたものだと思います。そして、西武台カラーはこれから先、何十年経っても変わ

ることは無いと思います。私も西武台カラーを変えずに、新しい伝統を何か築きたいと思います。そのためには、礼儀、挨拶、返事をしっかりとするのが大切です。

そして、バドミントンも西武台らしい「粘り強い」プレーをしたいと思います。勝てなくても負けない。このような強い忍耐力が必要だと思います。私も、インターハイ予選、新人戦に向けて走り出しています。目指す場所にたどり着くには、大きな壁がいくつもあります。技術面での事、精神面での事、フォーム、パワー、スピード、安定感など全てにおいて今以上に強化が必要です。

強化するためには、先生方や先輩方、後輩、そして同期のみんなの協力が必要です。その協力を得るためには、信頼されていなければなりません。人に好かれるような人間じゃないといけません。なので、私は「心」を強くしたいと思っています。

技術は練習をすれば上達します。しかし、心は自分で我慢しない限りいつまで経っても鍛えられません。試合の時に我慢してミスをせずに一本打つ事ができるように、もっと上に行けるように努力したいと思います。

感謝と思いやりを忘れずに練習に取り組みたいと思います。

高校に入学して

浦井 唯行(22期生)

西武台高校は 20 周年をむかえそして自分は、中学から内部進学で西武台千葉高等学校に入学し、元気よく落ち着いた学校生活を送り何があっても逃げず何事にも恐れず何事にも正々堂々と挑戦する勇気を持ち、勉強も部活もしっかりと両立させていきたいです。特に部活面では、しっかりした人間味を育てあげ後輩や先輩からも皆から尊敬される人になりたいです。また一年生では三年生の堀内先輩と団体で絶対にインターハイに行くことを目標に、練習ではシングルスをしっかり強化することとジャンプ力や足腰をしっかり作ることを目標に、二年生でのインターハイ予選で三冠を取り、まあ取り敢えずダブルスではインターハイで活躍することを目標に、そして最後のインター



ハイでは、たとえ相手が優勝候補でも逃げず気を引き締め最後の最後の一本まで諦めず戦い団体、シングルス、ダブルスで全て優勝したいです。そして世界チャンピオンを「夢」にして頑張っていきたいです。

勉強面では、気を緩めず常にクラスのトップを目標にしたいです。

野口 裕輔(22期生)

僕は、バドミントンに出会ってよかったと思います。

僕がバドミントンをやるきっかけになったのは野田市で行われているサタデークラブというクラブに入って、初めはダイエットのつもりでやっていたのがいつの間にかバドミントンがとても楽しく感じるようになってきて、もっと上手になりたいなど思っているときに川間 Jr.の存在を知ってお母さんに頼んで入れてもらってこの頃からバドミントンを本格的に始めました。しかし大会に出ても全然勝つ事ができず悔しい思いをしました。

そこで、中学校になってもバドミントンを続けようと思いました。しかし川間中にはバドミントン部がなく、西武台中に行こうと思いましたが、このままの学力では入れない。そこで今度はバネに行く事にしました。バネでは麻美さんに勉強を教えてもらい何とか西武台中に合格しました。

それで部活を続けられるか心配だったけど、何とか続けられて、2年生の春には県1位になる事ができました。3年の夏には全中にも出られました。高校生になったら、インターハイに出場して活躍したいと思います

自分の十五年間

村瀬 撃(22期生)

自分は小学生の頃、二年生の終わりまで野球をやっていました。しかし、三年で違う学校へ転向して野球をやめて何もやる事がなく、ただバネで勉強を教わっていました。ある日、麻美さんに「バドミントン、やってみない。」と、誘われ遊び半分で行ってみました。野球をやっていたおかげか、おもいっきり打っても肩が痛くなりませんでした。気がついたら本気でやっていて心の中からバドミントンというスポーツを好きになりました。そんなある日、浦井とダブルスを組むことになって、ついていけるか正直心配でした。

でも、あきらめずついていき五年の時、全小に出場し一回戦で負けてしまいました。すっごく悔しくて、家に帰ってこれでもかかってくらい泣きました。それからというもの、死に物狂いで練習をやり六年の全小に出場し第三位まで行きました。三決のときに小林コーチにおもいっきり喝を入れ

てもらい勝つことができ、感謝しています。

中学に入学し戸辺先生にバドミントンを教わることになり初めは、わくわくしていました。しかし、失敗ばかりしていて戸辺先生に怒られてばかりでした。今考えると自分のために言うてくださっているんだなあ、と思い本当に嬉しいです。中三になって今は勉強でもすっごく苦労しています。前に勉強しておけばよかったと、本当に後悔しています。高校の入試は、どうなることかと思いましたが、なんとか進学できることが決まりほっとしています。高校に行ったら勉強で皆に置いていかれないよう頑張ります。高瀬先生には、これから色々迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いします。目標 皆に好かれる人になる！！

大島 唯(22期生)

西武台高等学校バドミントン部 20 周年おめでとうございます。

私は西武台に入って今年で、4 年目になります。小学校 3 年生で岩名ジュニアに入り、いままでバドミントンを続けてきました。

そんな中、私が 1 番感動したのが 2005 年に行なわれた「野田インターハイ」です。女子ダブルスでは、皆川先輩・松本先輩が 3 位に、男子ダブルスでは、石川先輩・平戸先輩が 3 位というすごい結果でした。

地元の人が応援するなか、すごいラリーが繰り広げられていました。最後の 1 本がきまった時の歓声はいまでも忘れられません。

私は、あのシーンを見てこんな大きな大会で活躍したい。1 位になりたいとより強く思うようになりました。たぶん、この 20 周年にはもっとたくさんのごいことがあったのだ、と思いました。

私もネバーギブアップ精神で最後の一本まであきらめないという気持ちでやっていきたいです。まだまだ未熟ですが、日本一目指してこれからも頑張っていきます。

柳 麻美(22期生)

私が西武台バドミントン部の現役でいられるのもあと 3 年きりました。そこで、私の今後の「夢」と「目標」について書きたいと思います。

まずは「夢」。夢とは実現するかどうかかわからないがやりたいと思うことです。そして私の夢は、シングルスで世界チャンピオンになることです。言葉で言うのは簡単ですが、そこまで行くための「努力」「我慢」「練習」を誰よりも多くやった人がトップになれるのだと思います。私は中 1 から高瀬先生にご指導していただいて、その 3 つが何よりも自分を成長させてくれると思いました。『人よりもつらいことを経験したら、そのつらさを乗り越えた人だけがわかる

楽しさがある。だからここは我慢しよう。』といつも自分に言い聞かせています。

そして「目標」。目標とはそこからはずれまい、そこまで届こう(届かせよう)と狙うものです。私の目標は、高校 3 年生の夏、インターハイ三冠です。中学生になって千葉インターハイが開催されて、初めて見たそのときの迫力はそれまでに感じたことのない衝撃でした。

それから、皆川先輩・松本先輩・石川先輩・平戸先輩の 3 位入賞と感動することが続きました。その時からわたしもあの歓声の中プレーをしたくなりました。その中でプレーができるようになるには、部内でも、学校内でも真面目にならなければなりません。それから、小さな努力(例えば毎日さぼらず走りこむ、フットワーク・素振りをするなど)を忘れず、謙虚でいて、毎日こんなすばらしい環境で練習できるようにしてくれている先生方、親へ感謝しながら 1 日 1 日の練習時間を大切にしていきたいと思います。白いハチマキに、部旗に、先生方に誓って・・・。

西武台中学校に入って

現王園 琢磨(24期生)

西武台千葉高等学校バドミントン部の二十周年おめでとうございます。

ぼくが、西武台中学校に入ろうと思ったのは、バドミントンを小学生からやっていたし、もっと上を目指して関東大会、全国大会で活躍したかったから入ろうと思いました。

西武台中学校に入って、この一年で学んだことは、いっぱいあります。最初に自分が変わったところは、あいさつ、先輩に対する態度などです。西武台に入ってから自然と先生や先輩だけでなく近所の人、知り合いの人にもあいさつができるようになりました。態度のことも先輩に教えてもらい礼儀正しくなりました。

これからは、自分は中一ではなく、今までは一番下の後輩でしたが、これからは先輩になるので、今まで自分が先輩に教えてもらったことを次の中一に伝えて、一人前の先輩になり、団体戦を組んで個人、団体と二冠をとって優勝カップをとってきたいです。

大島 彰悟(24期生)

西武台バドミントン部 20 周年おめでとうございます。

僕は、1 年生のおわりに岩名ジュニアでバドミントンを初めました。入ったときはとてもかたい気持ちでしたが小学 4 年生のときに高学年がバドミントンをやっているコートに入れてもらってか

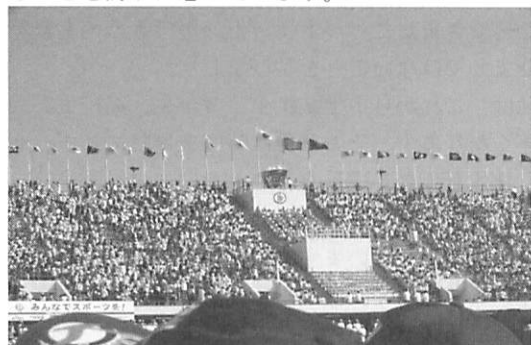
らかるい気持ちなんかで続けないで、本気でバドミントンを続けようと思いました。そして西武台のバドミントン部に入部させてもらって最初はとまどってばかりで練習にもついていけなかったりしましたが先輩たちにいろいろ教えてもらって県では2位なることができました。今年は関東大会でいい成績をのこして全国大会に出られるように頑張りたいです。

また、後輩が入ってきたら団体が組めるので上手く後輩をまとめて見本になるようなプレーをしたいです。

目指せ世界の西武台バドミントン

高瀬 秀穂(24期生)

20周年おめでとうございます。たくさんの先輩が築き上げたこの20年、そして作り上げてきた20年。こんな西武台バドミントン部にいられることを誇りに思っています。



そんな私は小学生の時にこんなにも楽しく、こんなに人を魅了し、感動させることのできるバドミントンのとりこになりました。こんな自分の好きなことをずっとできるなんて幸せ者だと思っています。けれども大好きなスポーツだからこそただやるだけではなく強くなりたいと思いました。何かみんなの記憶に残るような素晴らしい選手になりたいと強く思っています。だから私には尊敬している人がたくさんいます。そんな人に一歩でも近づけるように、日々自分との戦いです。どんなに強い人でも悩んで苦しむことはあります。けれどもそこで弱い人はすぐに自分から逃げてしまいます。強い人ほどそんな自分を奮い立たせ、更に自分に圧力を掛けていきます。だから世界にはこんな言葉があります。

“Conquer yourself before you conquer others.”

(人に勝つより自分に勝て)

その通りだと思います。どんなに苦しい試合でも最後は絶対自分との戦いです。自分に勝てたときこそ、本当の勝利だと思います。私は、この間、高橋尚子選手の書いた本を読みました。その本にも私にとってすごく大事なことが書いてありました。「自分がもう限界だ、と思ったとしてもその

限界は、自分の決めた限界だけで、自分に勝ってその限界をクリアすることもできる。だから私はいつでも自分の限界を超えようと頑張る。」と書いてありました。私はどんなに辛くてもその場から逃げないで、自分に打ち克ち自分の限界を超えようと頑張っています。

こんなバドミントンこそが本当の西武台のバドミントンだと思っています。だから私も背中に西武台と付けるのだから、西武台をしょって立てるようなプレーができるまでもっともっと練習を積みたいです。まだまだ私は未熟ですが、たくさんの人に支えられここにいることを忘れずに、いつか全国の人に世界の人に西武台のバドミントンを見てもらい、感動させられたらうれしいです。そして世界で戦い、活躍できるような選手になりたいです。

「目指せ世界1!!!」

「チャレンジ精神」

飯高 沙彩(24期生)

私が西武台に入ってからもう一年がたとうとしています。振り返ってみると、本当に短い一年間でした。ですが、中学校やバドミントン部での生活の中で、小学生のときとは比較できないほど沢山、考えたり思ったりする事ができました。考えたり思ったりする中で一つの壁です。西武台バドミントン部として試合に出場したり、練習をしていく中で、本当に沢山の壁に当たりました。最初の頃は小さかったのですが、乗り越えるたびに大きくなる壁に、戸惑うときもありました。ですが今は、「まちがっても良いから新しい事にどんどんチャレンジして、その中で正しい事を見つければ良いのではないかと、思うようになりました。今の壁は、フォームや気持ちです。特に気持ちだと思います。私の場合すごくラリーが長くなったときに、耐えることができず、あせってネットにかけたりアウトにしたりとミスをしてしまいます。もっと悪い場合、何もしていないのにミスをすることがあります。これは、自分に甘えてしまうからなのだと思います。これからもっともっと大きな壁に当たると思いますが、自分に厳しく練習に集中して、国体優勝を目指して、皆で力をあわせて頑張ろうと思います。私の今一番近い目標では、全中優勝です。そのためには、練習の面でも気持ちの面でも苦しいことが沢山あると思いますが、どんどん向かっていこうと思います。

おめでとうございます。

片倉 里沙(24期生)

西武台高等学校創部 20 周年おめでとうございます。私が入部してからもう 1 年が経とうとしています。今年は初めてが沢山ありました。いつも先輩たちに頼ってばかりだと思います。でも、もう 1 年が過ぎるので先輩たちをサポートできるよう頑張りたいと思います。

一昨年の夏には野田でインターハイが行われました。40 度を超す熱い体育館ですごく感動するプレーが見れたと思います。自分の目標ができ、さらに上へ上へと頑張る気持ちが生まれました。そして今は、平成 22 年に千葉県で行われる国体に向け日々練習に励んでいます。私たちが高校 2 年生の時なので 4 年あります。時はすごく早く過ぎると思います。なので、悔いの残らないように充実した毎日を送りたいです。4 年間の中には、まず全中があります。去年は関東止まりだったので、今年こそは一步前進できると言います。目標は高く「全国優勝」。
打ち克て!!西武台バドミントン部!!

「日々前進」

馬場 翔子(24期生)

西武台高等学校バドミントン部が創部 20 周年を迎えたということで、とても歴史を感じます。創部してからこの 20 年間で、いろいろな先輩達がたくさんの成績を残してきたと思います。

そして、私たち（現在の中学 1 年生）は、今年の全国中学校バドミントン大会での優勝を狙っています。私が今、中学生の中のレギュラーとして、試合に出させてもらえる事は難しいと思います。ですが、レギュラーの人もレギュラーではない人も、みんなで心をついにし、チーム一丸となって今年の全中、そして来年の全中、そしてそして再来年のインターハイ・・・へと突き進んでいきたいと思っています。

私自身としては、今試合に出られなくて、みんなの中での一番下だったとしても、追われる側にいる強い人よりは、いつも「挑戦者」という気持ちを持って、何事にも挑めると言います。わたしは、いつまでもこの気持ちを持ち続けたいと思います。

そして将来的には、インターハイなど大きな大会に「選手」として、出場したいです。そこまで行くには毎日の積み重ねだと思うので、努力を怠ることなく、「日々前進」していきたいです。

西武台20周年

俣野 愛実(24期生)

西武台バドミントン部 20 周年おめでとうございます。

私が西武台に入学して、もう 1 年がたちます。この 1 年間は本当に早かったです。私は受験するころ、何もわからなくて、とても不安でした。でも入ってみると、そんな不安も全部一気に吹き飛んでいきました。一番初めに感じたことは、西武台全体の雰囲気が良いことと、先輩達がみんなとても優しいということです。そんな尊敬できる先輩がいる西武台に入って、本当によかったと思います。

私は西武台に入ってから、バドミントンでも、バドミントン以外でも、たくさんことができるようになったし、気持ちも少しは強くなりました。それらができるようになったのも、自分だけでなかったのではなく、先生方や先輩達がいてくれたからこそできました。バドミントンができるのもあたりまえではないことを学びました。

私は、これから中学 2 年生、3 年生、高校生と大きくなります。そのときに時間を無駄にせず、心も身体も大きく成長していきたいと思っています。今の目標は全中優勝なので、それに向けて毎日練習を頑張っています。

今年も、感謝の気持ちを忘れないで、目標を高くもって頑張っていきたいと思っています。今年もよろしくお願いします。

山崎 綾乃(24期生)

私はまだ西武台バドミントン部として一年ですが私の一番の思い出はこの一年間の大会や行事です。大会では、いろいろなことを学びました。例えば、大会の時は、早めに行きアップをしたりとか準備をしたり、部活の行事では、片付けをきちんとやったりなど小学生の時とは、全然違うことばかりでした。私は、まだまだ知っていることよりも知らないことのほうが多いと思います。けれどあと少しの中学一年生の時間でたくさんのことを学べればいいと思います。今後の目標は県大会、そして関東大会、全国大会へとがんばっていききたいと思います。そのためには、心・技・体・戦術をクリアして、コート全体をきちんと動けるようにしたいと思います。私は、とつてもへたくそなので努力して、強い先輩、同級生に追いつけるようにがんばります。そして、みんなで力を合わせ、いろいろなことを乗り越えて全国大会に向けて一生懸命練習をしようと思います。そしていつかの夢を叶えたいです。

終わりに

記念誌作成にあたり、20年間を振り返ると……、

得たもの、失ったものは数々あります。得るために失ったこと、失うことによって得たこと、それぞれバランス良く私を通過していきましたが、一方で時代に風化されない「西武台の魂」だけがいつも私たちを支えてくれていることを改めて感じました。

もうひとつ、選手も OB・OG、そして保護者の皆様も、実に忙しいということもよくわかりました。携帯電話やメール、ファックス、それがあってもこんなに忙しいなんて、もし無かったら……、と思うとゾッとします。

そんな忙しい時、そしてつらくなった時、是非、西武台に来て、体育館に足を運んでください。体育館に入る瞬間、少し、緊張するのですね、そして何故か勇気もいるのですね。

堂々と胸を張って入ってください。歓迎致します。そして、選手の活躍ぶりを見てください。できたら一声かけてください。そして、互いの乾いた心に潤いを与えてください。

この記念誌を作るにあたり、編集に協力頂いた、戸邊先生、高瀬麻美さん、星野貴子さん、岡戸陽子さん、樋上夏さん、そして現役女子のみなさん、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。

さらに印刷製本にご尽力をいただいた株式会社サンワの岩立裕一郎さん（12期生）には筆舌に尽くせぬご協力をいただき恐縮しております。

皆様に心から感謝するとともに、今後とも御指導御懇情を賜りながら全力を尽くす所存でございます。より一層のお引立てをいただきたくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

高瀬 秀雄

西武台千葉高等学校バドミントン部創部20周年記念誌 2007

発行日 2007年3月4日 初版発行
発行者 西武台千葉高等学校バドミントン部
04-7127-1111
<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/alphabonet/>
編者 高瀬秀雄 望月宏一 稲田聡 戸邊尚彰 高瀬麻美
浦井美和 大日方美弥子 飯泉綾乃 小山文萌 榎田瞳
梅田有里紗 星野貴子 岡戸陽子 樋上夏

編集協力・印刷 株式会社サンワ
東京都千代田区飯田橋 2-11-8
TEL:03-3265-1816 FAX:03-3265-1847

Copyright© Seibudai Chiba High School Badminton Team. All rights reserved.

Hitch your wagon to a star.

星に車をつなげ



西武台中学校
西武台千葉高等学校
バドミントン部
20周年記念誌
平成19年3月4日

非売品